

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・今月は会社関係の忘年会が開催され、曜日を問わず盛況で、タクシー難民が出るようになった日も多くある。4年ぶりに忘年会で忙しい状況である。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月に入り、11月までのインバウンドを含めた怒りのような来客は急にストップしている。悪天候が続く北陸ならではの気候では仕方ないのかもしれない。1人の日本人客がまとめ買いをしたため売上は絶好調だが、それを除けば例年並みである。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・全商品群で前年並びに、新型コロナウイルス感染症発生前の2018年と2019年の実績を超える見込みである。訪日外国人観光客はアジアのほか欧米豪からも多くの来店があり、前月、前々月に続いてインバウンドによる売上も過去最高となる見込みである。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会やレストラン部門の来客数は徐々に戻ってきているが、12月に入って宿泊部門は伸びが止まっている。来年3月の北陸新幹線敦賀延伸前のためか理由は分からない。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・12月後半より端末販売価格の改定があるため、それに伴う前倒しの購入が目立っている。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・来客数は少し増加しているが、売上をみると変わらない。どの店でも客単価が下落していると聞いている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・大手自動車メーカーの不正問題の影響がどの程度あるか分からないが、当地は自動車の生産に関係している業者も多く、不安な状況である。12月の入込客は増加したようだが、インフルエンザの流行で子供の動きが悪くなる可能性があり、暖冬の良い影響とどちらが強く作用するか分からないところである。
	□	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・繁忙期にもかかわらず、前年や前々年と比べて来客数の減少が大きい。
	□	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・前年まではコロナ禍で、法人が歳末行事を中止した代わりに謝礼品を出すといった大口受注がギフトの売上をかさ上げしていたが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い受注が減少している。ファッション部門は気温の高い日が続き、特にコートやアウターといった冬物衣料の売行きに影響が出始めている。
	□	スーパー（経営企画）	お客様の様子	・節約志向が高まった状態は変わっていない。
	□	コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・客単価は高止まりで推移しているが、来客数は前年割れのため、売上としては微増である。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・天候不順により売上に影響が出ている。苦戦していると言わざるを得ない。
	□	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・12月は10月と比べて客単価は上がっているが来客数は減っており、全体的に沈滞ムードで消費意欲が低下しているとみている。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の販売が大きく減少している。物価高の影響とともに新車価格も上がったため、買い控えの状況が続いている。
	□	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・引き続き新車において長納期の状況が続いており、売上の増減が景気の良しあしの基準にならないところだが、客の購買意欲は高いとみている。
□	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・11月に続き月初めは、冬季需要のあるスタッドレスタイヤを中心に例年以上の動きだったが、降雪前にはピークが過ぎ、結果的には例年以下の販売数量となっている。新車納期に合わせて備品購入が集中したが、買換え客が予想以上に落ち込んでおり、必要最低限の支出に抑える傾向がみられる。	
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・耐久消費財や趣味やし好品への消費や支出は依然として厳しい状態が続いている。	

□	その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・景気が底なしに悪い。悪い状態に慣れてしまっていることが怖い。
□	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・土地柄から11月は旅行客や観光客、インバウンドの活発化と、冬の幸の時期とが重なり、多くの客でにぎわいをみせたが、12月第2週からは、地元客を中心に4年ぶりのクリスマス、忘年会などで外食の機会や頻度が増えている。この流れは、年末年始から1月下旬頃まで続くと予測している。
□	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・忘年会の団体客は減少しているが、個人客は週末を中心に予約が入っており、宿泊人数は減少しているが売上は減少していない。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・物価上昇による買い控えがみられる。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に新規契約者数が前年同期と同レベルで推移している。また、リアルでイベントを実施した際も、新型コロナウイルス感染症発生前の集客ができていない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約の獲得数に大きな変動はみられない。
□	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・国内の個人旅行については全国旅行支援も無くなりやや落ち着いているものの、団体旅行やインバウンドは増加しており、全体としては横ばいで推移している。
□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・冬休みの子供特別教室を4日間の日程で開催したが、思うような数字が取れなかった。予定していた数字から集客が75%、入会に興味のある客が20%、売上は70%である。年末年始で気分は上がってきているとみているが、当社の数字には反映されていない。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・客単価の上昇で売上は維持しているが、ここ数か月は来客数が前年を大きく割り込むことが多く、今後が心配である。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・注文住宅の受注は依然として厳しい状況が続いている。部材価格の高騰により追加工事が減り、1戸当たりの金額は伸び悩んでいる。また、大型物件の受注も減っている。リフォームの受注は計画どおりには進んでいるが、規模が小さくなっており、小規模工事の数を積み重ねている。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建築費の高騰により住宅着工が停滞している。
□	住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・この3か月は全く変化を感じない。悪くなる要素しかない割に目に見えた変化がない。今後しばらく変化があるとも考えられない。
▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・気温の影響もあるが、衣料品が大変苦戦している。月初めより価格を下げて対応しても反応が少なく、客は購入に対して慎重になっている。一方、食に関してはレストランや食品などは好調で、前年を大幅に伸ばしている。忘年会や会合などが頻繁にあるため、衣料品の購入を見送って飲食に利用しているとみている。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・以前にも増して客が価格の安いところに流れる傾向がみられる。
▲	スーパー（店舗管理）	お客様の様子	・来客数の減少が顕著に表れている。飛び抜けた競合店があるわけではなく、ドラッグストアを含めてオーバーストア状態のため、各社の実績を分析しても、単価で前年実績はクリアしているが、来客数、買上点数は前年を割っている状況である。
▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・暖房器具の売行きが悪い。
▲	家電量販店（本部）	販売量の動き	・暖冬の影響で季節関連商材の動きが悪い。外向きの需要が良いようだが、各々の業種における賃上げやコスト高で吸収され、全体的な景気上昇を感じない。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・タクシーの乗り控えが続いている。運賃改定後、売上額は増加したが輸送量が減り、3か月前より収入が減少し始めている。
×	—	—	—

企業 動向 関連  (北陸)	◎	—	—	—
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・土木部門での受注は可もなく不可もないが、電気部門においてはLED照明への交換工事の受注が多く好調である。
	○	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・業種を問わず、前年同期と比べて改善傾向がみられる。一部には新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで回復している企業もある。
	○	司法書士	取引先の様子	・駅周辺での新規事業関連の不動産取得、賃貸借契約の依頼が多くなっている。
	○	税理士（所長）	取引先の様子	・観光客だけでなく、県内在住者にも外出意欲があり、飲食店やイベント会場は満員である。客は多少高くても購入する傾向にあり、うまく価格転嫁できているところは、売上、利益共に確保できている様子である。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・年末年始向け商材が加わる最需要期を迎えているが、販売の傾向は変わらない。製品価格値上げの影響もあって販売量自体は苦戦する一方、金額ベースでは前年を上回る形で推移している。
	□	繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、国内ファッション衣料用途が堅調であることに加え、自動車用途も回復している。その一方で、これまで好調であった欧州向けのスポーツやアウトドア用途が失速しており、生産高は全体としては前年同期並みの水準となっている。
	□	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・特別積合せ業務では、物量の回復には至っていない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・今年上期は受注量が好調に推移したものの、10月以降は鈍化傾向となっている。
	▲	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が減少している。
	▲	一般機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・工作機械業界全体として、受注量が毎月減少し続けている。
	▲	輸送業（経理）	取引先の様子	・物流量が減少していて、荷物の確保に困難を要している。路線会社（大手運送会社など）での物流は従前どおりと聞いているが、中小や零細企業は依然厳しい状況である。
	×	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・一般消費者向け電子部品に関しては受注量が一方向に向上かず、ここに来て大手自動車メーカーの不正問題が出て、余り変動のなかった車載関連部品まで受注が減少している。
	×	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人客からの問合せが余りなく、活発な話を聞かない。
雇用 関連  (北陸)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿状況は前年を大きく下回る結果となったが、新卒採用のためのイベント等には現段階で例年とほぼ変わらない数の企業が出展する予定である。求人以外の新聞広告はおおむね好調であり、総合的にはマイナス分をカバーするプラス分があり、大きな変動はない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は微増で、大きく増えもせず減りもしない。求職者数は依然として低調なまま推移しており、仕事を紹介する機会も減少している。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・派遣先企業からの派遣依頼件数が少しずつ減っている。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・フルタイムの求人数の減少が続いている。
×	—	—	—	—